

令和4年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価

(令和3年度実施事業分)

報 告 書

令和4年11月

信濃町教育委員会

## はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行いましたので、その報告書を議会に提出するとともに公表します。

なお、本年度から評価は4段階（A：期待以上の成果 B：概ね期待どおりの成果 C：期待した成果を下回っている D：期待した成果が上がっていない）に変更を行いました。

（参考：令和3年度までの評価 3段階 A：順調 B：概ね順調 C：課題が残った）

本報告書により、教育委員会の事務・事業にご理解を深めていただくとともに、信濃町の未来を担う子どもたちのために、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

信濃町教育委員会

## 〈 目 次 〉

☆ 総括	1
☆ 子どもの未来を育む質の高い教育環境づくり	2
☆ 文化の薫り高いまちづくり	3
☆ 多様な学習機会と世代間交流を促す環境づくり	4
☆ 地域全体で子どもを守り、育てる教育環境づくり	5
☆ スポーツ活動が充実したまちづくり	6
☆ 共に生きるまちづくり	7
☆ 安心して子どもを産み育てることのできる環境づくり	8

## 総 括

「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価」は、教育大綱の基本方針を受けた基本計画（主要施策）ごとに評価を行い、次に方針ごとに評価し、最終的に全体としての評価を行っています。

令和3年度においても全国的な新型コロナウイルス感染症の終息が見えないなか、教育委員会では、学校、児童福祉施設、公民館施設、社会体育施設、文化三館それぞれにおいて感染防止策を徹底して事業を行いましたが、当初予定していました事業の一部で中止、延期、あるいは規模の縮小を余儀なくされ、計画どおりに進めることができませんでした。特に、多くの方に参加を呼びかける公民館事業、参加者が多い社会体育事業において顕著でありました。

教育委員会としてはこのような状況下ではありましたが、可能な限り工夫して事業執行に向けて取組んできました。しかしながら、結果として実施できなかった事業もあり、前回は下回る評価とせざるを得ない項目もありました。

基本計画（主要施策）の具体的内容に対する評価は、上記のとおり前回評価を下回る結果となった項目もありますが、「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価」の総合評価は、各方針についてそれぞれB（概ね期待どおりの成果）との評価となったことから、B（概ね期待どおりの成果）評価としました。

方針	主要施策	主要施策の具体的内容	評価	説明
子どもの未来を育む質の高い教育環境づくり	教育行政に関する総合的な指針づくり	本町の教育資源を活かした特色ある教育行政を総合的・計画的に推進する	B	学校教育、家庭教育、家庭教育の相互の連携と信濃町の自然、歴史、民話や俳句文化などに触れる機会や学習支援を継続している。また、新信濃町支援スタイルによる、乳幼児期から就学期までの切れ目ない教育支援体制を構築し推進している。
	小中一貫教育の推進	信濃小中学校において、「ふるさと学習」「読書活動」「特別支援教育」を柱とした特色ある教育活動を推進するとともに、しなの学校応援団や信濃町学校運営協議会による地域に開かれた学校づくりと地域人材を活かしながら、その成果と課題を検証し、教育内容を充実させる	B	PDCAサイクルによる自己評価並びに学校運営協議会で学校関係者評価を行った。また、令和元年度に行った第三者評価検証委員会による学校評価結果報告と改善提案に基づく取り組みの推進を図った。特別支援教育では、リン・スル・ムームの活用により、支援が必要な児童等の早期発見と支援を継続実施している。学校では地域と共に歩む学校を目標としており、全てのクラブ活動の講師を地域の方から支援いただき行っている。また、読書活動への取り組みを継続している。
		教職員の研究・研修活動を充実させ、教育の質の向上を図るとともに、保育園と学校での「ふるさと学習」を通じた教育活動によって子どもの主体性と郷土愛を育む	B	学びと育ちプロジェクト補助金による教職員の研究・研修活動の充実とふるさと学習の支援を推進した。また、保育園では地域の特性を活用した保育の実践、一茶かるた等を活用したふるさと学習を実施した。
		ICT機器の活用等による主体的・対話的で深い学びの実現と子どもが主体的に家庭学習に取り組める教育環境を整えながら学力の向上を図る	A	GIGAスクール構想の推進に係る国庫補助金等を利用して、ハード・ソフト両面で学校のICT環境整備を進めた。また、コロナ禍において子どもたちの学びを止めないため、1人1台端末の家庭への持ち帰り、オンラインツールを活用した健康観察やリモート学習、オンライン授業等を試行し、教育効果を考慮しつつ、その利活用の幅を広げた。
	教育支援体制の構築	知徳体のバランスのとれた「生きる力」を育むために、部活動においては肉体的、精神的な負荷や厳しい指導と体罰等の許されない指導とをしっかりと区別し、社会体育と連携しながら取り組む	B	学校では、学びと育ちプロジェクト補助金による部活動支援を行い、学校、保護者及び地域住民等が連携して人材育成を推進する取組みを進めるとともに、地域住民等が連携して部活動を推進する取組みを進めた。
		「保学連携による子育て支援プラン」に基づいて、一人ひとりの子どもを育ちと特性を理解した子ども支援に就学前から一貫して取り組む	B	新信濃町支援スタイルやプランに基づき、学校をはじめとする関係機関との連携により取組みを進め、入学時には園児自らが作成した「自分ノート」を活用し学校との連携に務めた。
		一人ひとりの子どもとの特性に合わせた学びの場を適切に選択できる教育支援体制を整備し、子どもたちの成長に寄り添いながら、各関係機関をつなぐ専門職員を配置し、乳幼児期から一貫した特別支援体制整備の推進に努める	B	発達支援専門相談員を配置し、乳・幼児健診やかまよひでの相談、保育園の巡回訪問等を行い、関係者との連携を行っている。
	幼児期の教育の充実	一人ひとりの子どもとの個性を尊重しながら、友だちとの遊びをとおして主体性を育む保育活動と本町の豊かな自然や文化にふれる体験や地域交流の機会を充実させる	B	信州型自然保育の取組み、収穫体験などを実施し地域との交流機会を持つことができた。
		保育園で育んだ子どもたちの主体的な学びを信濃小中学校で活かせるよう保学連携の強化に努める	B	令和2年度から信州幼児教育支援センターの研究開発事業を活用して、信濃町保学連携カリキュラム作成協議会を設置し、これまでの取組を基礎とした保学連携・接続カリキュラム作成や保学連携・接続の強化に取組んでいる。その実践として、定期的な、学校教諭と年長担任保育士との連携会議等により連携を行い、園児自身で作成した「自分ノート」を活用して入学児童の状況把握に努めている。また、すこやか教育相談へのトータルコーディネーターの参加、教職員の保育園訪問等も行っている。
	子どもや若者の夢の実現への支援	次代を担う人材育成のため、大学等進学を支援する奨学金制度と金融機関と連携した子育て支援資金融資制度で若者の夢の実現のための支援を行う	B	奨学金貸付事業を実施。令和3年度は継続奨学生4名、新規奨学生2名、累計6名へ貸付を行った。
高等学校等への通学費の一部補助など、義務教育終了後の教育を受けたいために必要な支援を行う		B	鉄道通学定期運賃補助事業を実施。令和3年度は126名に対し補助を行った。	

方針	主要施策	主要施策の具体的内容	評価	説明
文化の薫り高いまちづくり	文化・芸術活動の促進	文化の薫り高い町として、文化振興のための組織づくりを促進する 文化団体への指導者の紹介や活動成果の発表の場の提供などにより住民の文化交流を促進する	C	文化振興のための組織については、高齢化等による人材不足となっている。
	伝統文化の保存・活用	指定文化財の適正な維持管理を進めるとともに、町内各所に分布する埋蔵文化財などについても、調査・研究を行い、その保存整備を進める	B	公民館においては、支館合同での文化展を開催した。公民館報でサークル紹介を行い、新設サークルの相談等も実施している。また、町広報紙面で町民を対象に毎月俳句を募集し、住民に作品を披露する場を提供し、俳句文化の定着を図った。さらに、地元俳句会が選者となり、選句会の開催など活動が盛んになっている。
		伝統行事の保存・継承に関する取り組みについて検討する	C	パトロールを実施。維持管理費の一部に公費負担。文化財パンフレット、ホームページなど随時更新した。
	文化交流活動拠点の充実	文化財に関する住民の意識・理解を高め、重要な文化財は指定してその保存に努める	B	地域での取組が主体となって行っているが、後継者不足が心配される状況になっている。
		世界に誇るナウマンゾウ研究の拠点として、「野尻湖ナウマンゾウ博物館」の施設や展示内容、活動の充実を図るとともに住民の意見を反映し、住民から支援を得ながら、地域と協働する博物館を目指した活動を展開する	B	パトロール等を通じて、文化財の保存を行っている。
		小林一茶とその郷土に関連する資料等の研究・展示、また文化活動を普及する拠点施設として、「一茶記念館」の展示内容や活動の充実を図る	B	常設展示室のマンモスの展示パネルを新設し、展示内容の充実を図った。特別展は前年に発掘された宮ノ歴史跡発掘調査の内容を展示した。展示室内の照明のLED交換を進め、施設の充実を図った。住民と協働で「野尻湖周辺を活性化するための博物館活動事業」をおこない、案内人の養成、化石の3D画像作成等に取り組んだ。
		ドイツの文学者ミヒャエル・エンデや信州ゆかりの作家等の作品の収蔵施設として、重話の森の自然環境を活かしながら、「黒姫童話館」や「童話の森ギャラリー」、「ちひろ山荘」の施設や展示内容、活動の充実を図る	B	あらたに発見、借用した一茶資料を積極的に公開したほか、一茶資料の購入を行い常設展の内容を充実させた。さらに、多数の新規資料の高額及び寄託等の受入れを行った。
	文化資源としての観光資源としての役割の強化	入館無料券の配布などにより、住民がこれらの文化・芸術作品等と日常的に接することができる機会を提供する	B	30周年に合わせて「モモ」の原画、山室静、高橋初代館長の展示を行うと共に、ぼけっとメルヘン童話集を刊行した。重話の森ギャラリーでは、業者委託ではなく職員で展示を行った。
		文化交流活動拠点における観客に結びつくイベントの開催はもとより、「野尻湖ナウマンゾウ博物館」及びナウマンゾウ発掘地周辺一帯の観光エリアとしての機能強化や全国俳句大会への参加促進、文化財に関する情報発信など、本町の貴重な文化資源を観光資源としても活用する	B	文化三館で町民無料券の配布を行い、町広報紙で事業活動の掲載や企画展や特別展等について周知に努めた。
	流山市などの他市町村や、他の博物館、美術館、類似施設等との広域的な文化交流・交流活動の拡大に努める	入館無料券の配布などにより、住民がこれらの文化・芸術作品等と日常的に接することができる機会を提供する	B	博物館では、町民が信濃町の自然や歴史に興味を持ってもらえるように、学習会を4回、講演会を2回実施し、公民館の文化展に真ノ木遺跡出土の縄文土器を展示し、文化財に触れる機会を提供した。
文化交流活動拠点における観客に結びつくイベントの開催はもとより、「野尻湖ナウマンゾウ博物館」及びナウマンゾウ発掘地周辺一帯の観光エリアとしての機能強化や全国俳句大会への参加促進、文化財に関する情報発信など、本町の貴重な文化資源を観光資源としても活用する		B	一茶記念館では、クイズ形式で楽しく学べる「一茶基礎講座」を開催した。町広報紙に「はじめての一茶さん」の連載を継続し、年2回発行の「一茶記念館だより」を全戸配布した。	

方針	主要施策	主要施策の具体的内容	評価	説明
多様な学習機会と世代間交流を促す環境づくり	生涯学習情報の提供	「広報しなの」内の公民館報の充実、ホームページやポスター・チラシの活用により、生涯学習に関する情報提供の充実に務める	B	館報、HP以外でも支館事業のチラシ、防災無線なども利用し情報提供を行っている。
	生涯学習施設の整備・充実	総合会館や各公民館について、老朽化に対応した適正な維持管理を行う 個人・サークル等による自主的な学習活動が促進されるよう施設環境の整備充実に努める	B	適切な維持管理に努めているが、気象状況により予期せぬ被害が発生した。
		地域の防災拠点としての機能整備を進める	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止によりサークル活動そのものが停滞しており、また、感染症対応事業のため公民館施設の一部を使用したため利用が進まなかった。
		住民の学習ニーズを把握しながら、地域資源や生活文化、現代的な諸課題を踏まえた各種生涯学習講座・教室を企画し、子どもから高齢者まで、幅広い年代の自主的な学習活動のきっかけづくりを行う	B	感染症対応用備品等の整備を関係課と協力して行った。
		自主的な学び「人づくり」と、学びを通じた活動交流「つながり」が循環し、住民が地域の将来を考え主体的に取り組む「地域づくり」を目指した社会教育活動を進める	C	地域ごとに特色を活かした公民館本・支館事業を開催(感染症拡大防止のため、密になるものや飲食を伴う事業は中止)したが、住民の自主的な学習活動のきっかけになっっているとは言いがたい。
		子どもを対象とした生涯学習講座・教室の充実を図る	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。
		子どもや若者世代へ受け継ぐ高齢者の豊かな知恵や経験の活用、高齢者の生きがいづくりに向けた、世代間交流を図る	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため計画どおりではなかったが、公民館事業及び放課後子ども教室を実施した。
		住民が文化・芸術に触れる機会として、個人・サークル等による自主的な文化活動の発表の場である文化祭等の開催や様々な文化芸術等の催しへの連携を通じ、文化交流の促進を図る	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。
		「信濃町子ども読書活動推進計画」に基づくブックプレゼントの実施や読み聞かせグループの活動協力により読書のきっかけづくりを図るとともに、信濃小中学校での朝読書や総合会館図書室、木育ルームなかよしを拠点とした読書環境の整備充実と県立図書館との連携による読書のまちづくりを推進する	B	文化祭は実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため展示のみとなり、文化交流とまではいかなかった。 木育ルームなかよしの絵本の蔵書や総合会館図書室を充実させ、貸出事業やブックスタートを継続実施している。また、学校においては毎朝の読書活動を実施している。

方針	主要施策	主要施策の具体的内容	評価	説明
地域全体で子どもを守り、育てる教育環境づくり	子ども自立のために必要な発達段階に応じた社会教育、家庭教育、学校教育について地域、保護者、学校それぞれが共通理解できるよう啓発に努める	子ども自らの「生きる力」を育てていくため、「しなの学校応援団」や「学校運営協議会」により、保護者や地域住民が「信濃小中学校」へ参画する仕組みの充実を図り、学校を核とした住民協働による教育を進める	B	地域との関係については、学校運営協議会を中心としたコミュニケーションの取組みを推進している。支援を必要とする子どもについては、発達支援相談員・スーパーバイザーを配置し、保護者等からの発達段階での相談等を情報共有し共通理解に繋げている。また、公民館図書室においてコーナーを設け啓発本を置いている。
	地域全体で子どもを育てる環境の整備	一定期間親元から離れ学校へ通学する「通学合宿」について、社会教育委員を中心に取り組む 地域食材を使った豊かなおいしい給食を提供し、食育と地産地消を学校給食センターで推進する 地域での異年齢による遊びや高齢者との交流など、世代間交流ができる取り組みが行われるよう、子ども会や育成会への支援に努める	B D B C	学校運営協議会に「学びと育ちプロジェクト補助金」を交付するとともに、新たに学校教職員と地域住民を繋ぐコーディネーターとして学校応援団長を委嘱し、地域住民が学校へ参画する仕組みの充実を図った。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため事業を中止した。 保護者、地元生産者や産業観光課と連携協力し、食育と地産地消の推進に取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、育成会を中心とした小学生駅伝大会、公民館事業における異年齢交流事業は中止としたが、町内各育成会(13団体)の内活動を行った育成会(10団体)に助成金を支給した。
子どもの安全対策の推進	子どもたちが実際に雪や氷にふれ、その楽しさや厳しさを学習する機会を設け、命を守る大切さの指導に取り組む	地域や学校、行政が協力し、子ども登下校時における安全確保、地域の危険箇所の把握などの取り組みを進め、子どもたちが安心して遊び、学べる環境づくりに取り組む	B	信濃町通学路安全推進会議による通学路合同点検を実施し、学校及び関係行政機関による危険箇所の確認、点検、対策の検討及び対策実施の推進を図った。下校時の防災行政無線による見守り放送や子どもの見守り隊の活動を継続している。また、公民館等でも子ども登下校の際に見守りや、天候等によっては、ホールを開放するなど、安心なスペースづくりに取り組んでいる。
	子どもの安全対策の推進	子どもたちが実際に雪や氷にふれ、その楽しさや厳しさを学習する機会を設け、命を守る大切さの指導に取り組む	B	学校では毎月の安全の日を継続している。また、スキー学習や雪遊びに取り組みする環境整備に努めている。保育園では、信州自然型保育等の取り組みを継続実施している。また、公民館各支館において各種事業を計画準備していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止とした。
	社会全体で有害図書や有害薬物、インターネット等を通じた有害な情報等から子どもたちを守り、青少年の非行防止に努める	社会全体で有害図書や有害薬物、インターネット等を通じた有害な情報等から子どもたちを守り、青少年の非行防止に努める	B	少年警察ボランティア協会や防犯協会等と連携し、街頭活動、有害環境チェック活動、防犯活動を実施した。学校では、インターネットトラブル防止等の学習を実施した。公民館では、チラシ、ポスターなどにより啓発活動を実施した。

方針	主要施策	主要施策の具体的内容	評価	説明
スポーツ活動が充実したまちづくり	スポーツ・レクリエーションの振興	住民主導によるスポーツ振興をさらに進めるため、スポーツ振興団体等の活動を支援する	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教室の開催が中止、あるいは縮小となった。
		多様なスポーツニーズに応えられるよう、指導者の育成と資質の向上を図る	B	スポーツ推進委員、総合型スポーツクラブを中心に指導者研修会へ参加した。
		各種スポーツ団体・クラブ、ジュニア指導団体の自主的な活動を支援し、職場や地域におけるスポーツ活動の活性化を促進する。特に、青少年少女を中心とする団体の育成を図り、スポーツ活動を通じた心身の健康づくりと仲間同士の交流を促進する	B	スポーツ協会やスポーツ少年団の活動を支援し育成を図っている。学校では、少子化により部活動等の競技人口が減少している中で、飯綱中学校との合同部活を継続して行った。
	スポーツ施設の整備・充実	住民・地域・民間・行政がそれぞれ役割を分担し、住民の健康の増進と親睦を深めるスポーツイベントの充実に努める	C	スポーツ推進委員が中心となり、地域スポーツ関係者と連携して開催している町民対象のスポーツフェスティバルは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止した。
		雪に親しむスポーツ・レクリエーションの振興に努める	B	学校では、スキー学習に取組める環境整備に努めた。保育園では、園庭に雪山をつくり雪に触れて遊ぶことにより、園児のうちから雪と親しむ環境整備を行っている。町全体としては、公民館各支館事業やスキー大会を通じて振興を図っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となった。
		住民の日常的なスポーツ・レクリエーション活動から各種スポーツ行事などの開催まで、多様なスポーツニーズに応えられるよう、既存スポーツ施設の整備改修と適正な維持管理に努める。また、町外者のスポーツ合宿や大会等への施設貸し出しにより有効活用を図る	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として貸し館の制限等もあり、利用者数が少なかった。

方針	主要施策	主要施策の具体的内容	評価	説明
共に生きるまちづくり		地域間交流や国際交流など、青少年の交流活動を促進する	D	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため地域交流は実施できなかった。国際交流はしていない
	青少年の交流促進	学校・家庭・地域・関係機関が連携し、子ども会の組織強化、地域活動との連携、自然や歴史・文化、産業とふれあう体験の場・遊び場の確保などを図る	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっていたジュニアリーダー養成研修会が2年ぶりに再開され、信濃小中学校7年生14名が参加した。公民館においては感染症拡大防止対策のため、事業を中止した。その中で、文化三館においてはそれぞれ工夫して事業を行った。博物館では、博物館のサポーターとして活躍してもらった「ジュニア氷河時代案内人」の養成を行い、小中学生が博物館と関わるしくみをつくることできた。記念館では、俳句文化の継承活動として当日行事は中止したが、第21回全国小中学生俳句大会を実施した。重話館においては、開館前の時間帯に、クロスカントリースキークラブの練習のため遊歩道の使用を許可し、園内管理を行い芝生広場等で過ごせる場所を確保した。
		青少年の非行防止に向けた広報・啓発活動を強化する	B	警察ボランティア協会や防犯協会と連携し、街頭活動、有害環境チェック活動、防犯活動等を実施した。
		本町の特性に即した男女共同参画の取り組みを総合的・計画的に進めると策定した「信濃町第2次男女共同参画社会推進計画」の推進と次期計画への見直しを行う	A	信濃町第3次男女共同参画社会推進計画を策定し、新たにジェンダーの理解を盛り込んだ。
	男女共同参画の推進	広報・啓発活動や学校教育、生涯学習などさまざまな場を通じ、性別による固定的な役割分担意識の解消や男女平等意識の浸透などに向けた意識改革を推進する	B	学校教育の中での取組は確立している。また、生涯学習としても情報提供等を行っている。
		各分野の審議会・委員会への女性委員の積極的な登用など、政策・方針決定の場への男女の参画を進める	B	計画を策定し、随時啓発を実施している。町の委員会等の委員については、登用への理解が進んできていると思われる。
		女性の能力向上やリーダーの育成を進めるため、学習機会の提供や団体活動の支援に努める	B	婦人会等の活動に支援を実施し、講演会などを行った。
		育児・介護休業制度の普及促進や事業所への男女共同参画に関する啓発、農業・商工業における労働環境改善の啓発など、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを進める	C	人権教育の一環として啓発を実施している。
	人権教育・啓発の推進	人権教育・啓発を効果的に推進するため、人権教育指導員等の指導者の養成と資質の向上に努める	B	研修会に参加し、資質の向上を図っている。
		住民一人ひとりが日常生活の中で当たり前のこととして人権を尊重した発言や行動ができるよう、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえながら、学校・家庭・地域・職場などさまざまな場を通じて人権教育・啓発を推進する	B	要保護児童対策協議会関係者会議において、関係機関と虐待の予防と早期対応、連携の必要性について確認している。また、学校においては人権教育を行うとともに、早期発見等に務めている。生涯学習として人権フォーラムの開催、ポスター等により啓発活動を行った。
	人権擁護委員会や関係機関と連携し、人権相談の充実を図る	C	研修会に参加し、資質の向上を図っているが、連携については課題が残っている。	

方針	主要施策	主要施策の具体的内容	評価	説明
安心して子どもを産み育てることのできる環境づくり	地域の子育て環境の整備	施設の老朽化や出生数の減少、保護者のニーズの多様化等を勘案し、今後の保育園のあり方について検討する ふれあい広場などの整備や学校施設の開放等により、身近で安全な遊び場を確保し、子どもが楽しく遊べるまちづくりを進める 放課後児童クラブや放課後子ども教室の充実などにより、働く保護者を支援するとともに、放課後の子どもたちが安全に過ごせるまちづくりを進める 子ども会活動や異年齢交流、三世交代流など、子どもの地域活動の場を増やし、地域ぐるみで児童の健全育成に取り組む 町内各地域の育成会組織と連携しながら、子ども会活動の指導者やブレイリーリーダー（ボランティア）など、子育て支援の人材育成を進める 乳幼児や小学生等の保護者を会員とし、児童の預かり等の支援を受けるとを希望する人と、援助を行うことを希望する人との相互援助活動に関する連絡・調整を行うファミリー・サポーターセンターの充実を図る 新信濃町支援スタイルによる取組を推進し、安心して子育てができるよう信濃町子ども・子育て支援事業計画により、相談窓口の充実や子育てグループへの活動支援等を総合的に推進する 多様化する保育ニーズに対応するため、保育の充実・強化と施設整備を推進する	C	保育園のあり方についての検討の機会や子ども・子育て審議会の開催は出来なかった。 それぞれに設置している遊具等の安全点検を実施し、必要に応じ修繕・更新等を含め安全確保に取り組んでいる。また、体育館の社会体育団体等への開放を行った。 児童クラブについては、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対し、感染予防対策を講じながら継続して開設した。放課後子ども教室は新型コロナウイルス感染症拡大のため、内容等を精査し回数を減らして実施した。 町民会館をとおして、町内各育成会へ助成している。子どもの地域活動の場づくりを支援し、地域ぐるみの健全育成に取り組んでいる。 公民館においても支店事業として取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小して実施した。 人材育成のために長野地方子ども会育成連絡協議会が主催するジュニアリーダー養成研修会に参加した。
	保育サービスの充実	本町の豊かな自然体験や農業体験、高齢者とのふれあい活動、「信濃小学校」と連携した活動など、保育内容の充実を図る	B	3年度においては、会員数13名、8件の利用があった。 新信濃町支援スタイルによる取組を推進し、発達支援相談員・スーパーバイザー・木育ルームななかよし相談支援員により、役場窓口だけではなく、学校・保育園・保健センター・木育ルームななかよし等において相談会を実施。 乳幼児の安全確保のため、午睡チャエックのためのセンサー付き午睡マットを導入した。
	子育て家庭への経済的支援	子育てにかかわる経済的負担を軽減するため、3歳以上の幼児教育の無償化を行うとともに、子育て支援を推進し、定住を促進する観点から、3歳以上児の副食費、3歳未満児の主食・副食費の無償化、保育材料費等の無償化を行っている。 保護者負担軽減事業（公費負担による教材費等無償化）の継続、就学援助費支給による経済的負担の軽減に努めた。	B	特色を活かした保学連携に取り組むため、信濃町保学連携カリキュラム作成協議会を設置し、これまでの取組を基礎とした保学連携・接続の強化に取り組んだ。 保育園では、信州自然保育を推奨する活動、プルーベリー収穫体験、高齢者とのふれあい活動を実施した。
	インクルーシブ教育の推進	特別な支援を必要とする子どもへの就学前から卒業後にわたる切れ目ない支援体制の整備を促すため、子どもに関係する機関が連携し一貫した支援に取り組まながら全ての子どもが安心して教育を受けられるインクルーシブ教育を推進する	B	令和元年度に構築した新信濃町支援スタイルにより、乳幼児期から就労期までの切れ目ない支援を行うために相談会の実施・支援会議等により情報共有・支援方法の検討をし支援に繋げるとともに、通常学級においてもユニバーサルデザインに取り組んでいる。